吉原公園に出來る觀音様

もの〻かくれかけて來た大震災當時遊女等多くの慘死者を出した吉原公園にあはれな遊女達の靈を慰める樣にと觀音堂が建つ事になつた、費一萬圓で四月花時頃にはこんな式をあげるそうであるが觀音樣は今麻布富士見町の後藤雲正氏の自宅で毎日五六人の弟子を使つて一心製作に餘念がない（寫眞は今仕上中の觀音樣と右雲正氏）

孔子の戀愛觀（上）

秋梧

由來漢人種は、あらゆる災厄は天の怒りの致すと所ろである、故に天意に反かず天の容る〻ところとなれば、禍害は逸れ得るものと信じ、終に拜天思想を抱き、更に一種の道德觀念を形成するに至つた、此の思想の中に人となつた孔子は―尤も理智、情感の中正を得てゐた彼のことですから、當時迷信的思想が民衆を強く動かしつゝあつた傾向を見て頗る慊らなかつたのは、言ふを俟たぬが―遂に此の潮流から脱却することが出來なかつた、加ふるに孔子が失意のうちに魯を去り、衛から曹、宋―匡鄭、陳、蔡、葉、楚、衛と幾多の國々をめぐり歩いた所謂漂泊時代は、確かに深く彼をして、常に己の德を修めて天の意を得れば、常に天の冥護に預り得るものだと云ふ天人一合の妙境を悟得せしめた、のみならず孔子は進んで此等倫理思想に統一的原理を發見し、確固たる倫理觀を組織した、併しながら孔子は科學的に倫理を組織したのではない、孔子自身の人格的表徴其れがやがて倫理であつた、此か即ち孔子の思想の中樞を爲してゐるものであつて、其の統一的原理がいふところの「仁」の一德である

この大切な仁に就いては論語の中に到るところ説かれてゐるが、さてその意味及び内容はどうか、この點は孔子さへはつきり説いてゐないので、今日もはつきりした定説がない、孔子はよくそれを體得してゐてその意味、内容、心持などを「仁」の語と共に直ぐに自ら默會したに違ひなからうけれども孔子以外の者は矢張り、孔子の明快な説明を聽かないと、どうしてもはつきりわからぬ點があつた、故に古來其の解釋區々として歸するところを知らない有樣である、

或る者は「仁は愛の理、心の德」と解し、或ひは佛教的解釋を下して「仁」は覺だ、主人公常に惺々」と言ひ、或は「仁は衆行の大名だ」と云ふ古註に從つた説を唱へ、更に「仁は慈愛の大德、盡近内外、充實通徹、至らざるなきをいふ」と説いてゐる者もあつて、何れを取り何れを去るか、其の判斷に苦しむのである、しかし私等は「仁は愛の理、心の德」と朱子の云うた説が先づ當を得てゐると思ふ「仁は愛である」と云ふのは極めて直截簡明、要を得て、居るものである孔門の英雄が仁を尋ねた時に、孔子は人を愛することであると答へられたことが論語の子路篇に出てあるのを見ても、斯く解釋するに間違はないと思ふ

更に世ふに「仁」といふ文字は二人といふ會意文字であつて、二人の間に發露する最も尊い性情は、「仁」即ち「愛」である、「愛」は天の性であり、人の本能である、而して凡ての道德は皆之から派生すること、恰も一個の幹から數多の枝葉を生ずるやうなもので、論語の「仁」は仁政と云ふやうな時もあり仁心といふやうな場合もある、かと思ふと仁德と云ふやうになることもあり、更に禮を守るものである等と説かれることもあるが、其の歸するところを見るに人を愛するの意に外ならないのである、即ち愛人の政に現はるゝものは仁政で、愛人の心に在るものは仁心であり、愛人の身に在るのは仁德で、愛人の作法が禮である、此の邊から考へて私等は論語の「仁」が甚だ英語の「ヒューマニティ」に似て居ることを感ぜざるを得ない、英語の「ヒューマニティ」は拉典語の「ホモ」即ち人の意味から出て人間の意味となり、人間の特質の意味となり、更に同情の意味になり博愛の義となられたのである

「仁」の漢人種に於いても亦其の通りである

そして孔子が始終一貫、唱へられてゐる「仁」即ち「愛」は「己れの欲せざる所、人に施すこと勿れ」衛靈公」や「夫れ仁者は己れを立てんと欲して人を立て、己れを達せんと欲して人を達す」雍也」といふ如きもので、平たく云へば無報酬で總べて其の對象たるものに與へて惜まない愛である、決してドオグラスとか云ふ白人が解したやうな互惠的な愛ではない、他を益し、他を利する代りに自分も利益しやうといふやうな卑しい動機から愛が生じたのではない、又そんな愛は眞愛とは云はれない、孔子の唱へてゐる愛に自己の利益其ものを度外に置いて、愛人、愛他の「おもひやり」と誠心から成立つてゐるものと謂ふべきであ〻、白人によく見る利己主義的な考へを多く持つやうな者には孔子の説いた眞愛の意義は分り兼ねる

論語を讀んで誰人も殘念に堪えなかつたことは、孔子が君子を説き、小人を説いて、ひとり女性について殆んど説くところがなかつた、殊に夫婦關係、性道德の問題について述べることをしなかつたことである、時にあつたかと思ふて、見付け出されたのを讀んだ見ると、其は「女子と小人とは養ひ難し、之を近づくれば則ち不遜、之を遠ざくれば則ち怨む」といつたやうな文字で、現代の所謂新しい女達を怒らせてゐるものばかりである

みなみ俚謡

用紙ハガキ宛名本
關係月計賞銀謠題
當季節詠翻翻局選

〇辻の易者に春まだ寒い、嬶の買手もまだつかぬ　峯南　四星

〇色に燃え立つ紅うつくしく、私も見惚れてうつくしくと　松月

〇床に移した蕾の花へ、蝶が慕ふて舞ひに來た　鳥山頭　柳の木

〇こゝは尼寺散りそな花に、今日も未練の續く雨　新竹　浩々歌

〇立つた噂は包めぬさうな、花は霞へ包むそな　高雄　渡猿

〇咲いてみたとて白露の、蝶を迷はす山おやない　峯南　柏春

〇朧々が何んでほしや、ッす首締めの哀れさを　鳥山頭　林馬

〇上の空舞ふ雲雀が啼けば、夢の蝶々が目をさます　京義　榮浪

〇男殺女殺をからかひなから、後は白波通る川風　鳥山頭　青紅

〇説かす羽織の紐より先きに、とけ合ふ春の宵　峯南　銀鈴

台中五目

▲去る十四日、本山知事に兩部長高田果物社長、坂本彰銀、瀰口同主事等、ショポ降る春雨を衝いて大肚山のリングまで遠足、猛練習就中坂本彰銀の如きは、猿股まで濡れたのに、も一回と踏み止まり壯者も及ばぬ熱心振りを示したとある

▲共進會開會中、市役所樓上は共進會畫展覽會に占領され、本丸の公室も、共進會に襲擊される虞あり、御大將其處へ御座あつては危うしくとの注進があるので、遠藤市尹避難地を探かしつゝある

▲協贊會勸誘係長の森部ドクトル、法人團體の寄附金を八千圓、個人の寄附金を八千圓、計一萬六千圓と豫想して居たが、個人の寄附金は、有つたものほど出し澁るので、豫想通り集らない

▲今日までの成績を見ると、個人寄附の最高は坂本彰銀の二百圓で百圓組が本山知事、小豐鎌治、新見喜三郎、蕭鶴、吳子瑜の五君、尤も本山知事は告知書次第、何んぼでも出すとの御意であつたらしい

▲その次ぎの五十圓組は、森部醫院、遠藤市尹、川崎請負、安土肥後屋、石川與搬、春田旅館、野津辯護士、高田果物會社、藤井丸三、林澄波、前田同春堂の諸君

▲回春堂君が百圓を奮發すると榮町の金額がウンと増加する、初音町で田中高砂、牧野八千代等が五十圓出すと、遊廓でもズツと増加する處であつた、一人の増減は全體の増減に至大の影響を及ぼしたと、勸誘係では云つて居る

▲共進會開會式は、廿八日第二小學校々庭で擧行、全島官民へ發送する招待狀は、約一千枚だと、雨が降ると參列者ズブ濡れ

▲書畫、骨董展覽會に陳列する點數は、軸物百四點、骨董八十六點で締め切つた、成るべく廣く蒐むる積りであつたが、出品人員は約三十名だと

產糖制限の協定
尚ほ過剰を免れぬ